

第6回交流部会（1/22） 議事録要旨

十勝川温泉のホテルにも新しい動きがあるが、十勝川温泉を魅力的にしてい
くことを考える必要がある。施設を改修したくとも資金的な問題があり、なか
なか進まない現状にある。

ロングステイはホテルの連携のもと宿泊施設の体制を整えなければならな
い。1つのホテルの館の中だけで観光客を留めているのでは、ロングステイの
推進は難しい。温泉手形や宿泊手形のようなホテルの外に出られる取り組みが
求められる。

阿寒のホテルの鶴雅は、日本人だけを受入れ、値引きをしないホテルとして
バイキング料理を売りにしている。商工会議所では帯広の売りとして、モール
温泉である銭湯や愛国・幸福のルートを磨くことを議論している。

ロングステイの取り組みとしては、食が重要であるが、ファーマーズマーケッ
トをホームページで紹介してみてもどうか。

十勝は、温泉街にネイチャーセンターがあり、自然体験に取り組んでおり、
ロングステイの可能性が大である。

サホロの地中海クラブは、ロングステイの先駆的な取り組みをしているので、
参考にすると良いのではないかと。

疲れを癒すことができ、リピーター客が訪れるような特色あるホテルが少な
いので、食事のメニューも曜日で違うような取り組みが必要である。

ネットでホテルを選ぼうとしても、値段と温泉があるかで選択するしかない。

朝の食事バイキング方式で、どのホテルも同じである。お客に手間を惜し
んでいては駄目である。

観光客に対する歓迎のあり方として、駅、空港などの観光インフォメーショ
ンは、勿論のこと、景観の良いスポットの紹介などを実施していくことが必要
である。

十勝川温泉に宿泊している場合、ホテル内だけではなく、外に引っ張り出す
取り組みが必要である。

富良野やニセコではオーストラリア人を呼び込むため、ホテルから飲食店ま
でバスを送迎する取り組みを行っている。

ロングステイは、十勝ではあまりすすんでいないので、外から来る人にどのような取り組みから始めるのか。ファーマーズマーケット、ナチュラルチーズ、菓子業界の食の取り組み、十勝の豆など資源はあるので、最初の一步をどう踏み出すのかを検討すべきである。

住民は十勝の魅力を知っているのだろうか。十勝の観光資源のデータをまとめる必要がある。

広域でロングステイサポート企業会議をホテル、飲食、交通関係の企業にて圏域の活性化のために立ち上げ、イベント情報、物産のPRを含め、観光客、滞在者、市民向けに情報発信をしていくべきである。人が動けば、交通業界の新しいサービスも生まれてくるはずである。また、帯広市の観光情報のホームページはあまり良くないという印象である。

勝毎の花火大会は、集客力があり、札幌方面から客が押し寄せ、ホテルも満室の状況であるが、三大まつりのひとつである平原まつりは、客を呼び込むイベントになっておらず、マンネリ化しているという印象である。

洞爺湖の花火は、外客向けに特化したイベントであり、市民向けのイベントと区別して検討する必要がある。

東川では、商工まつりと産業まつりをひとつにし、春夏の大きなイベントとして再生している。また、滝川は陳腐化したのにお金がかかるイベントを止め、ジンギスカンのメーカーが7つもある街なので、新たにジンギスカンまつりを開催し、街中を歩行者天国にして成功を収めている。

平原まつりを根本的に見直し、市民が喜ぶまつりとして実施すべきである。

まつりは地域活性化のためには無くてはならないものであり、町内会に協力してもらい、のぼりを立ててもらうなど盛り上げていくことが必要である。

平原まつりの盆踊りについては、企業中心ではなく、市民が踊りの輪に入っ
て来られる工夫が必要である。

食のメッセ（見本市）となるグルメ市のようなイベントを開催してみてもどうか。

農業機械展のようなコンベンションと食に関するイベントを組み合わせ
て開催し、市民が楽しんでいる様子を見せることにより、外からも人が来るものである。

更別のインターナショナルスピードウェイで毎年開催されている24時間マ
チャリレースは10年程続いているが、参加する楽しみと応援する楽しみが
ある4千人規模のイベントである。

とかちプラザは、コンベンション施設と言っても、インターネットに接続できる会場がごく僅かという現状であり、改善すべきである。

以 上